

ならやま茶論

「最終火曜日」

竹本 雅昭

机：これから 2~3 時間の会議、ご苦労さんです。いつもならどうされてるんです？

翁：ソファーで昼寝だな。そこで相談だが、もしもコックリするようだったらゆり起こしてくれよ。

机：ガッテン、ガッテン。

翁：テレビの見過ぎだな。隣の人迷惑にならんよう、ソッと頼むな。

机：旦那、旦那。

翁：なんや。

机：ほれ、皆さん挙手したはりますよ。

翁：エッ！何のことやろ、あんた知らんか？

机：私も釣られてポーとしてましたわ。早よ旦那も手を挙げといたら？

翁：うんそうやな、取りあえずそうしとこか。もう 3 時過ぎたな。いつもやったらコーヒータイムや。カスタードやクッキーで目元ぱっちりなのにな。

机：うらやましいことどすな。

翁：オイ！ちょっと黙っててくれよ。会計報告中やが、資料が多くて、今どの部分を読まれてるのかさっぱりわからん。難儀しますわ。

机：もうすぐ終わりのようですが、旦那は今日何か意見はないんですか。

翁：ないない何も。あんたの誘いに乗ったら大恥かゝんならんわ。さあ終わった、帰ろう。机君よ又な。

机：・・・・・・・・。

翁：ウン！わしの幻覚やったか・・・・・・・・。

～終～



癒しの散歩道

春ですネ。



どこかで春が

谷川 萬太郎

1. どこかで春が泣いている

流れる川の水も冷やかに

凍てつく木立は冬ごもり

どこかで冬が笑ってる

吐く息白く手指は凍え

花の蕾も固い土の中でもがき

春を待ちわびて

2. どこかで春が呼んでいる

海山が冬空に痺れを切らし

季節の儂さ我が心知らず

いずこに春は待っている

照らせよ我が胸に暖かく

渚の波飛沫に見え隠れして

春を待ち焦がれて

